令和3年度発掘調査

埋文 さかど 年報

長岡遺跡25区出土縄文土器

坂戸市教育委員会

序 調査概要

坂戸市は市域の大部分を平坦な台地（坂戸台地・毛呂台地）が占めており、台地の縁辺部には越辺川や高麗川などの中小河川と広大な沖積平野が広がっています。安定した台地と豊かな水源、肥沃な沖積平野といった恵まれたこの土地では、いにしえから人々の豊かな生活が営まれてきました。その活動の痕跡として、市内には旧石器時代（約15,000年前）から中近世に至るまで、数多くの遺跡が存在しています。現在登録されている市内の遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の数は152か所にも及び、毎年多くの発掘調査が行われています。

調査の大半は、開発によって失われていく遺跡の記録作成を目的としたもので、住宅建設や公共事業などに伴い、令和3年度には17件の発掘調査が市内各地で実施されました。

市内に残る貴重な遺跡を保存し、未来へと受け継ぐことが、現代に生きる我々の大切な使命です。

おもなできごと

旧石器時代	約3万5千年前	大陸から日本列島へ人々が渡ってくる
	約1万5千年前	市内で石器が出土（後期旧石器時代）
縄文時代	約1万2千年前	土器誕生
		市内最古の土器（縄文時代早期）
	約5千年前	市内各所で環状集落が営まれる（縄文時代中期）
	約2,300年前	大家地区で多彩な耳飾りが出土
弥生時代		稲作伝来・鉄器などが使用される
		青銅器（銅鐸）などが使用される
		墳丘墓の出現
		佐賀県吉野ケ里遺跡の環濠集落などができる
古墳時代	約1,750年前	前方後円墳の出現
		国内で須恵器の生産が始まる
飛鳥時代（あすか）	約1,450年前	市内で古墳がたくさん造られる
		大化の改新（乙巳の変）645年
奈良時代	約1,300年前	若葉駅周辺に大規模な集落が出現する
		勝呂廃寺や東山道武蔵路がつくられる
		秩父で和銅が産出　和同開珎鋳造
		平城京遷都（710年）
平安時代	約1,200年前	平安京遷都（794年）
	約1,000年前	関東で平将門の乱が発生（935年）
		武蔵武士が活躍
		入西地区や勝呂地区の武士が活躍する
		壇ノ浦の戦いで平家滅亡（1,185年）
鎌倉時代	約800年前	鎌倉幕府成立

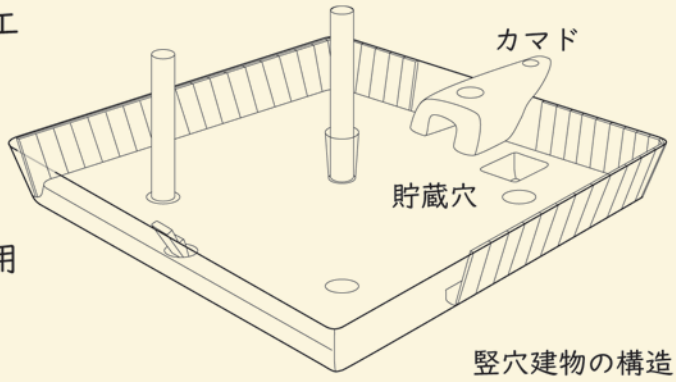
用語解説

【竪穴建物(たてあなたてもの)】

半地下式構造の建物、居住だけではなく工房や倉庫等、様々な用途に使用された。

【掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)】

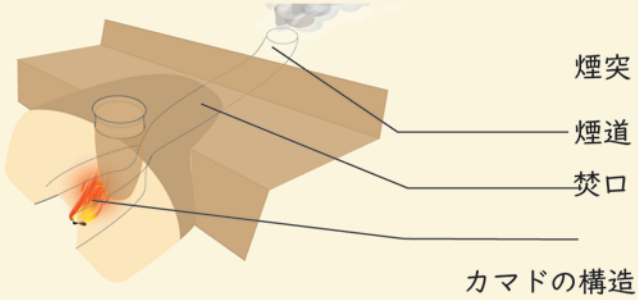
地面に掘った穴の中に柱を立てた建物。平屋構造、高床構造に分類され倉庫や居住用として使用された。



竪穴建物の構造

【カマド】

竪穴建物内に敷設された加熱施設。調理や暖房として使用された。



カマドの構造

【貯蔵穴(ちょぞうけつ)】

竪穴建物内の施設の一つ。床下収納として使用された。

【土師器(はじき)】

古墳時代以降に作られた素焼きの焼き物。焼き上がりは赤褐色や黄橙色になる。

【須恵器(すえき)】

古墳時代に朝鮮半島から伝来した硬質の焼き物。ロクロで成形され、登り窯を用いて焼成する。焼き上がりは青灰色や灰色となる。

【奈良三彩(ならさんさい)】

唐の唐三彩を模倣して日本で作成された高級陶器。褐色・藍色・緑色の釉薬を施釉し低温で焼かれる。色鮮やかな美しい色彩が特徴である。

【鉈尾(だび)】

帯(ベルト)金具の一つ。使用される材質によって階層差がある。

【権(けん)】

はかり、おもり。石製、銅製などがある。

【耳環(じかん)】

古代の耳飾り。金属の細い棒を折り曲げて作られ、ほとんどのものが銅製の地金に鍍金や鍍銀が施されている。

【凹石(くぼみいし)】

くぼみにドングリなどの木の実を置き、叩き割るのに使った。

長岡遺跡25区出土
凹石

1 池ノ台遺跡6区（坂戸市関間四丁目地内）

基本情報

調査理由：土地区画整理事業
調査期間：令和3年3月12日～4月9日
調査面積：31㎡
検出遺構：井戸1基

池ノ台遺跡は坂戸市南部の坂戸台地上、鶴ヶ島市との市境付近に位置しています。今回の発掘調査では井戸が1基発見されました。

井戸は直径2．8m、深さは掘削した面だけで約2mを測ります。出土遺物は土師器、須恵器が井戸の覆土中からわずかに出土し、その遺物の年代観から少なくとも8世紀後半（奈良時代）には井戸の埋没が始まっていたものと思われます。井戸は水源が付近にない人々の、貴重な生活の場として使用され、営みの根幹を支える重要な施設であったと考えられます。

井戸

2 上谷遺跡16区（坂戸市大字中小坂地内）

基本情報

調査理由：園舎建設
調査期間：令和3年3月19日～5月11日
調査面積：117㎡
検出遺構：竪穴建物5棟、溝1条、土坑1基

上谷遺跡は坂戸市南東部の中小坂地区、大谷川を望む台地上に位置しています。今回の発掘調査では、竪穴建物をはじめとする複数の遺構が発見されました。

竪穴建物の年代観は出土遺物から、古墳時代中期～古墳時代終末期(5世紀～7世紀)に推定することができます。1号竪穴建物は1辺が2mほどの小型の竪穴状遺構です。柱穴やカマドは確認されませんでしたが、保存状態の良い遺物が一括出土しました。1号竪穴建物の使用用途は不明な部分が多いですが、倉庫や、土器を用いた祭祀の場として使用された可能性が考えられます。

1号竪穴建物遺物出土状況

1号竪穴建物出土遺物

2号竪穴建物は全体の約半分を調査することができました。良好な保存状態のカマドも検出され、カマドの煙道を確認することができました。カマドの周辺からは土師器の甕・坏などが出土しています。

2号竪穴建物出土
土師器　甕

2号竪穴建物カマド

4号竪穴建物はほぼ全体を調査できた数少ない竪穴建物です。建物の床面からは当該期の遺物が多数出土しました。柱穴は確認できませんでしたが、カマドや貯蔵穴が設置されており、当時の生活の様子を垣間見ることができます。

4号竪穴建物遺物出土状況

3　勇福寺遺跡2区（坂戸市大字片柳地内）

基本情報

調査理由：土地区画整理事業
調査期間：令和3年6月9日～7月7日
調査面積：136㎡
検出遺構：方形周溝墓1基、溝1条

勇福寺遺跡は坂戸市中心部の坂戸台地上に位置する遺跡です。眼下には沖積低地が広がり、その中を飯盛川が流れています。今回の発掘調査では溝1条と弥生時代後期の方形周溝墓1基を検出しました。方形周溝墓とは、方形に盛土した埋葬部分の周りに、溝をめぐらす弥生時代を代表する墓制の1つで、坂戸市内においても非常に多くの方形周溝墓が発見されています。

今回調査した方形周溝墓は全体の4分の1ほどで、埋葬施設などは確認されませんでした。

1号方形周溝墓

4 山田遺跡19区（坂戸市八幡二丁目地内）

基本情報

調査理由：店舗建設
調査期間：令和3年3月30日～5月29日
調査面積：640㎡
検出遺構：竪穴建物6棟、竪穴状遺構1基、掘立柱建物10棟
土坑5基、ピット13基、溝1条

山田遺跡16・19区全景写真(黄：16区、赤：19区)

山田遺跡は坂戸市南部の平坦な台地上に位置し、付近には国道407号線が南北に通っています。過去にも複数地点で発掘調査を実施し、多くの竪穴建物や掘立柱建物が発見され、「奈良三彩陶器製火舎」や「銅製鉈尾」、「石製権」などの特殊な遺物が出土しています。このような出土遺物から坂戸市内における奈良時代から平安時代にかけての特徴的な遺跡の一つとして評価されています。

今回の発掘調査では過去に調査を行った山田遺跡16区の隣接地点の発掘調査を実施し、竪穴建物や掘立柱建物をはじめとする複数の遺構が発見されました。特に、掘立柱建物は濃密な分布が認められ、おおむね南北方向軸を保ちながら建てられています。また、建物同士の重複が激しい事から建物の建て替えも複数回行われたとみられ、計画性をもって建物が配置されていたと考えられます。なお、特徴的な遺物として「令」の文字が墨書された須恵器の坏が出土しました。「令」の文字自体が何を意味するかは不明ですが、山田遺跡内の他の調査においても、複数点出土しているため、重要な意味持つ文字であったのかもしれません。

13号掘立柱建物出土
須恵器 坏「令」

5 下田遺跡6区（坂戸市西インター二丁目地内）

基本情報

調査理由：物流倉庫建設
調査期間：令和3年1月8日～7月2日
調査面積：15,300 ㎡
検出遺構：竪穴建物2棟、竪穴状遺構1基、溝41条、
自然流路17条、土坑52基、ピット486基

下田遺跡は坂戸市のほぼ中央部、高麗川の氾濫等により形成された沖積地に位置しています。下田遺跡では、これまでに複数回の発掘調査が実施され、縄文時代から現代に至るまでの遺構・遺物のほか、水田などの痕跡も発見されています。

今回の発掘調査では竪穴建物2棟や溝41条などが発見されました。発見された竪穴建物は、出土遺物から平安時代の竪穴建物であると考えられます。

下田遺跡6区全景写真

6 浅羽野古墳群1区（坂戸市中富町地内）

基本情報

調査理由：宅地造成工事
調査期間：令和3年11月8日～12月9日
調査面積：93㎡
検出遺構：古墳1基

浅羽野古墳群は坂戸市南部の坂戸台地上に位置しています。今回の調査では以前から確認されている浅羽野2号墳の周溝部分が調査対象となりました。調査の結果、底部が穿孔された土器が出土し、古墳の築造年代が古墳時代前期頃まで遡る事が明らかになりました。土器を用いた祭祀が行われた可能性があります。

浅羽野古墳群1区全景写真

周溝内出土遺物

7 西浦遺跡52・53区（坂戸市大字新堀地内）

基本情報

調査理由：個人住宅建設
調査期間：52区　令和3年9月13日～9月15日
　　53区　令和3年9月21日～10月4日
調査面積：52区　13㎡
　　53区　70㎡
検出遺構：52区　溝２条
　　53区　古墳１基、溝２条

西浦遺跡は坂戸市西部の毛呂台地上に位置しており、坂戸市内においても数多くの発掘調査が行われている遺跡の一つです。今回の発掘調査では古墳１基、溝3条を検出しました。検出した古墳は、わずかな範囲のみでしたが、過去の発掘調査の事例等から円墳とみられます。　西浦遺跡付近では北峰古墳群と呼ばれる古墳群が展開しています。北峰古墳群では古墳時代後期頃になると、同規模の古墳が狭い範囲に密集した形で造営されます。全国的には「群集墳」と呼ばれており、血縁・地縁的関係のある小規模な集団によるものと考えられています。今回調査した古墳もこの「群集墳」を構成する中小円墳の一つであるとみられます。

北峰43号墳周溝完掘状況

8 宮ノ前遺跡15区（坂戸市大字片柳地内）

基本情報

調査理由：土地区画整理事業
調査期間：令和3年8月3日～9月24日
調査面積：136㎡
検出遺構：方形周溝墓１基、溝2条、土坑１基、ピット１基

宮ノ前遺跡は坂戸市北縁辺部に位置しています。今回の発掘調査では、隣接地点の宮ノ前遺跡9区の調査において検出した方形周溝墓に対応する溝状の掘り込みを検出しました。この掘り込みは、方形周溝墓の周溝部分に該当し、宮ノ前遺跡9区の調査成果と合わせると、１辺18mほどの方形周溝墓になります。

宮ノ前遺跡15区全景写真

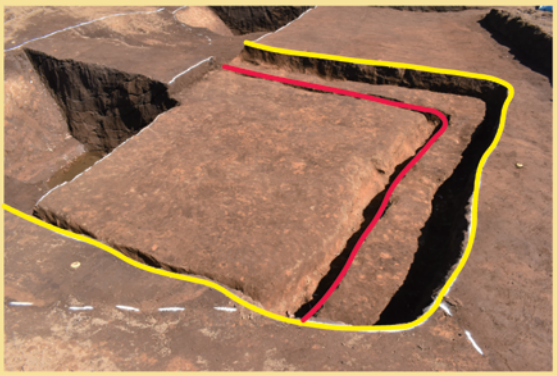
9 町東遺跡5区（坂戸市大字戸宮地内）

基本情報

調査理由：個人住宅建設
調査期間：令和3年9月10日～10月7日
調査面積：132㎡
検出遺構：竪穴建物２棟、溝１条

町東遺跡は坂戸市東部の坂戸台地上に位置しています。今回の発掘調査では平安時代の竪穴建物2棟と大型の溝1条を検出しました。

発見された竪穴建物2棟のうち1棟は建物の改築(減築)が行われていることが、土の堆積状況等から明らかとなりました。何らかの原因により竪穴建物を改築する必要があったようです。調査した溝は調査区を東西に走り、幅320cm、深さ150cmを測ります。溝の形は薬研状を呈しており、中世以降の館を構成する堀の一部であると考えられます。



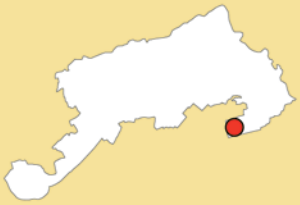
1号竪穴建物完掘状況(黄：減築前、赤：減築後)

1号溝

10 原遺跡8・9区（坂戸市大字中小坂地内）

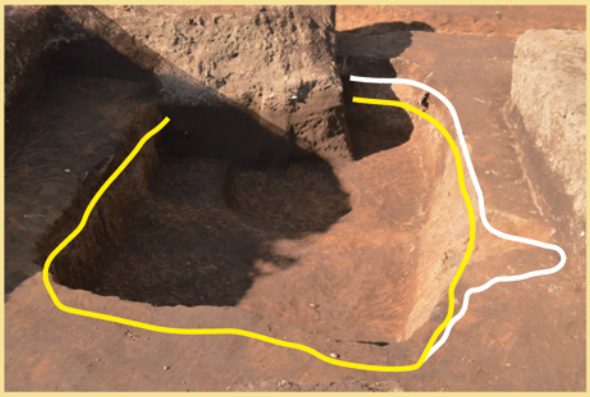
基本情報

調査理由：個人住宅建設
調査期間：令和4年1月28日～2月24日
調査面積：8区　65㎡
　　9区　33㎡
検出遺構：8区　竪穴建物1棟、竪穴状遺構1基、溝1条
　　9区　竪穴状遺構1基、溝2条、土坑1基、ピット2基



原遺跡は坂戸市南東部、川越市との市境付近の坂戸台地上に位置しています。

今回の発掘調査で検出した竪穴建物は、カマドの煙道部分など、わずかな範囲を除く大半が土坑の掘り込みによって破壊されていました。年代は不明な部分が多いですが、出土遺物から奈良・平安時代の竪穴建物とみられます。なお、竪穴建物を破壊して造られた大型の土坑は、出土遺物から9世紀後半頃のものと考えられます。



1号竪穴建物完掘状況
(白：1号竪穴建物、黄：土坑)

11 長岡（ながおか）遺跡23・24区（坂戸市大字長岡地内）

基本情報

調査理由：個人住宅建設
調査期間：23区令和3年4月23日～6月30日
　　24区令和3年5月24日～8月4日
調査面積：23区 305㎡
　　24区 287㎡
検出遺構：23区 竪穴建物12棟、溝1条、土坑4基、ピット16基
　　24区 竪穴建物4棟、掘立柱建物1棟、溝1条、土坑6基、ピット11基

長岡遺跡は坂戸市西部の入西地域、毛呂台地上に位置しています。付近には越辺（おっぺ）川が流れ、水源に恵まれた地勢です。今回の発掘調査では、縄文時代中期から奈良・平安時代まで連綿と続いた集落の一端を調査しました。

長岡遺跡23・24区全景写真

2号溝は23・24区の調査区を東西方向に通る大型の溝です。溝幅は東から西へ向かってハの字状に広がり、広いところでは約5mを測ります。深さは約60cmで断面形は概ね逆台形を呈しています。出土遺物は、7世紀から8世紀初頭(古墳時代終末期から奈良時代初頭)にかけての遺物がまとまって出土しており、当該期を中心に溝が機能していたようです。溝の用途については判然としませんが、溝の両岸に複数の小穴を検出しており、これらの小穴が何らかの機能を有していた可能性が考えられます。

2号溝完掘状況

写真右は2号溝から出土した須恵器広口壺(以下広口壺)です。広口壺は貯蔵具の一つで、日常生活や古墳への副葬品として使用されました。今回出土した広口壺は底の部分が摩耗しており、日常的に使われた後に廃棄された物と思われます。2号溝からはこの他にも多くの土器の破片が出土しており、中には須恵器 横瓶といった古墳へ副葬されるような遺物も出土しています。長岡遺跡の近くには塚原古墳群と呼ばれる古墳群が展開しており、2号溝から出土した遺物は塚原古墳群と長岡遺跡の関係性を考える上で重要な遺物となります。

広口壺出土状況

須恵器 広口壺

38号竪穴建物 埋甕炉

写真左は38号竪穴建物(縄文時代中期頃)の埋甕炉です。埋甕炉とは土器の下半部や上半部を打ち欠き、地面に掘った穴に設置した炉の一種です。土器の内部には赤く変色した焼土が堆積しており、火が使用された事が分かります。

36号竪穴建物(写真右)は弥生時代終わり頃から古墳時代前期にかけての竪穴建物です。竪穴建物は6m×5mの隅丸長方形を呈しており、他の竪穴建物と若干の違いが見られます。また、竪穴建物中央やや北側より地床炉を検出しました。地床炉は強い被熱により炉面が赤く変色しており、日常的に使用されていたと考えられます。

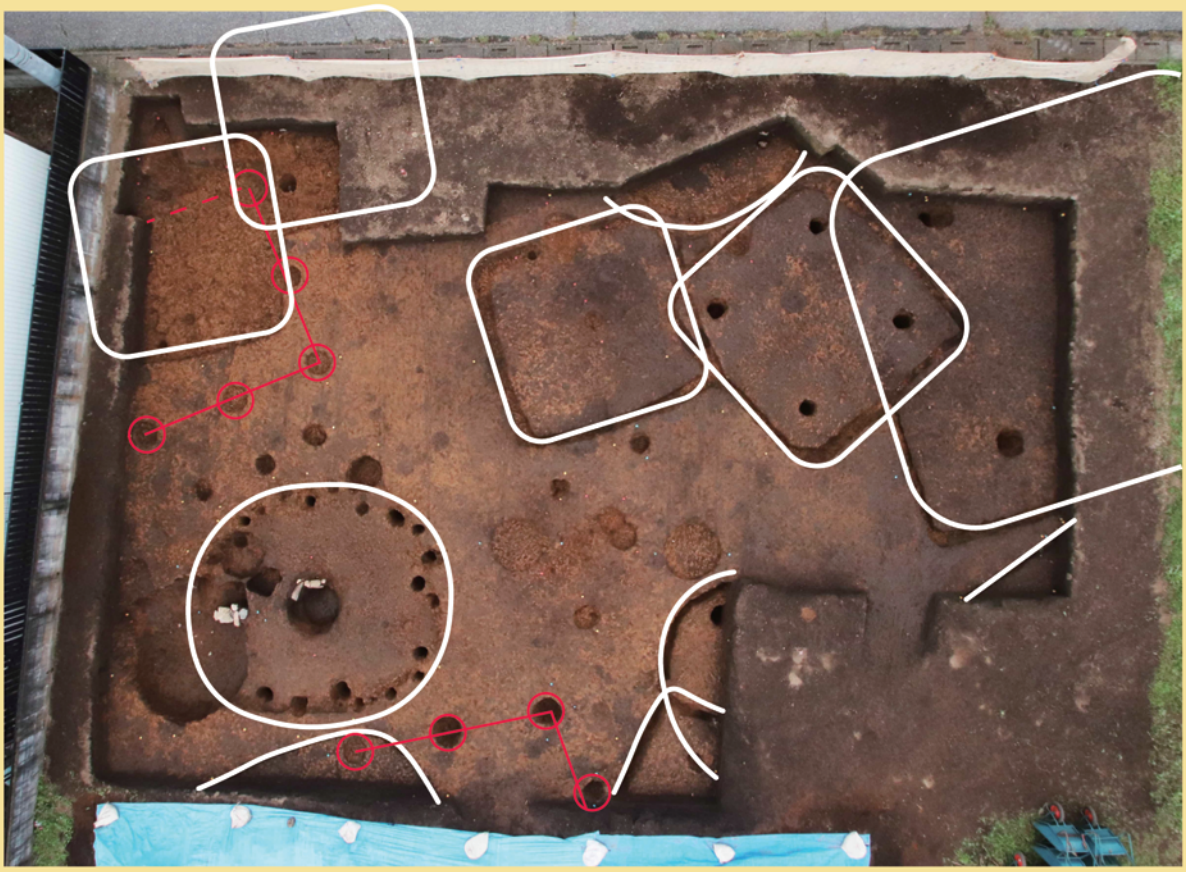
36号竪穴建物

12 長岡（ながおか）遺跡25区（坂戸市大字長岡地内）

基本情報

調査理由：個人住宅建設
調査期間：令和3年8月19日～10月20日
調査面積：191㎡
検出遺構：竪穴建物11棟、掘立柱建物2棟、土坑13基、
ピット5基、屋外炉1基

長岡遺跡25区発掘調査では、縄文時代中期～奈良時代頃までの遺構を調査しました。



長岡遺跡25区全景写真

5号竪穴建物(写真下)は直径約6m程の縄文時代後期(約4,000年前)の竪穴建物です。5号竪穴建物の外周には柱穴が並んでおり、何本もの柱によって建てられていたことが分かります。また、建物の西側において検出した大型の土坑には凹石（くぼみいし）を転用した石組みが造られていましたが、一体何のための石組みであるのか判然としていません。

5号竪穴建物

不明石組み

9・10号竪穴建物は縄文時代中期頃(約5,000年前)の竪穴建物です。9号竪穴建物からは「勝坂式」と呼ばれる立体的な造形が特徴の縄文土器が出土しました。また、9・10号竪穴建物は重複関係にあり、土層断面の観察から9号竪穴建物が10号竪穴建物を壊すようにして建てられていることが分かりました。

9・10号竪穴建物

9号竪穴建物出土縄文土器

1号竪穴建物(写真下)は1辺約4.5mの古墳時代終末期(7世紀頃)の竪穴建物です。今回の調査区において最も多くの遺物が出土しました。須恵器横瓶、金銅製耳環など特殊性の高い遺物が出土しています。また、灰白色の粘土を多量に使用したカマドが設置されていました。

1号竪穴建物遺物出土状況

1号竪穴建物生活面

耳環出土状況

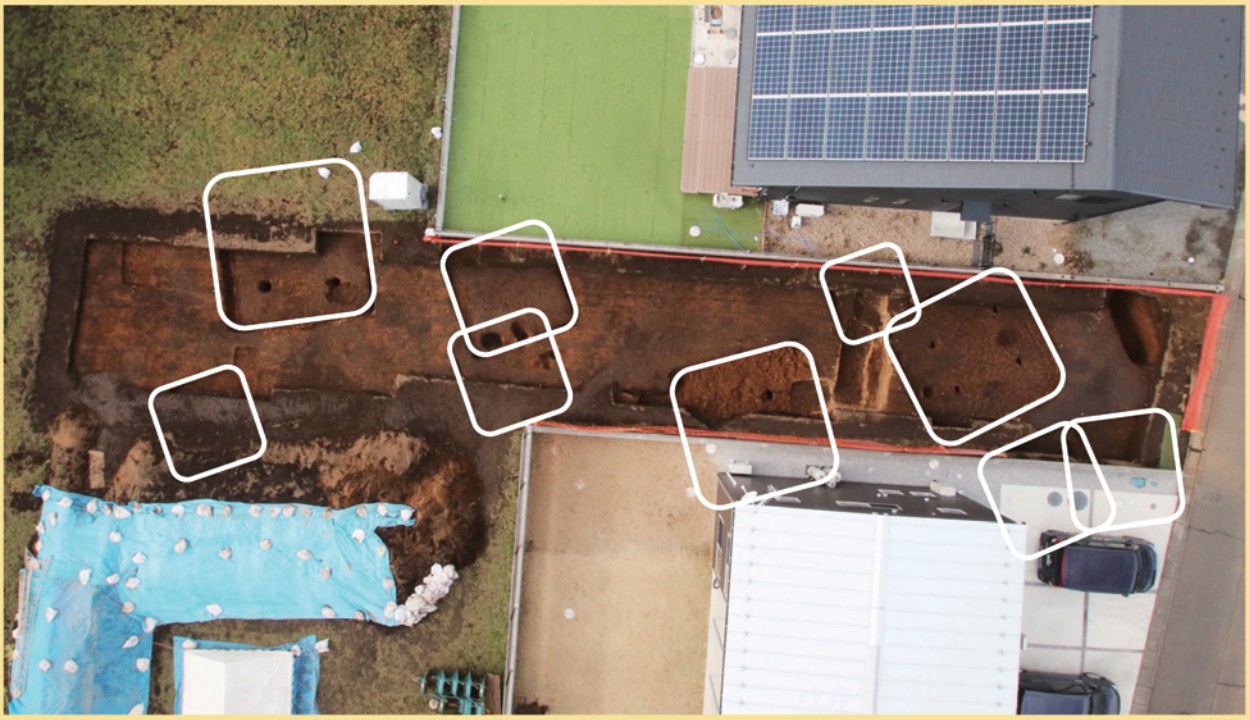
1号竪穴建物 カマド

13 長岡遺跡26・27区（坂戸市大字長岡地内）

基本情報

調査理由：個人住宅建設
調査期間：令和3年12月10日～令和4年1月26日
調査面積：26区　47㎡
　　27区　59㎡
検出遺構：26区　竪穴建物7棟、土坑4基
　　27区　竪穴建物7棟、土坑6基

長岡遺跡26・27区の発掘調査では縄文時代前期から奈良・平安時代までの遺構を調査しました。



長岡遺跡26・27区全景写真

1号竪穴建物(写真下)は1辺約6m程の古墳時代初頭にかけての竪穴建物です。床面には地床炉が確認でき、生活の痕跡をうかがうことができます。出土遺物は吉ヶ谷式系土器、樽式土器、五領式土器という異なる系統の土器が一括して出土しました。樽式土器は群馬県域を中心に分布しており、当時の地域間交流や土器型式の変化を考える上で貴重な成果と言えます。

1号竪穴建物

1号竪穴建物遺物出土状況

4号竪穴建物(写真右)は古墳時代終末期(7世紀頃)の竪穴建物です。煙道部が良好に残存しているカマドが検出され、カマドの隣には貯蔵穴(ちょぞうけつ)が確認できます。出土遺物は比企型坏(ひきがたつき)と呼ばれる土器の他、滑石製(かっせきせい)の臼玉(うすだま)が出土しました。臼玉とは装身具の一つで、主に祭祀関係に用いられたとされています。今回の調査では4号竪穴建物の他に、5・6号竪穴建物でも臼玉や小玉(こだま)が出土しました。これらの玉類の出土は長岡遺跡の性格を考する上で重要な発見となります。

黄:5号竪穴建物　白:4号竪穴建物

4号竪穴建物出土
臼玉

6号竪穴建物出土
小玉

5号土坑

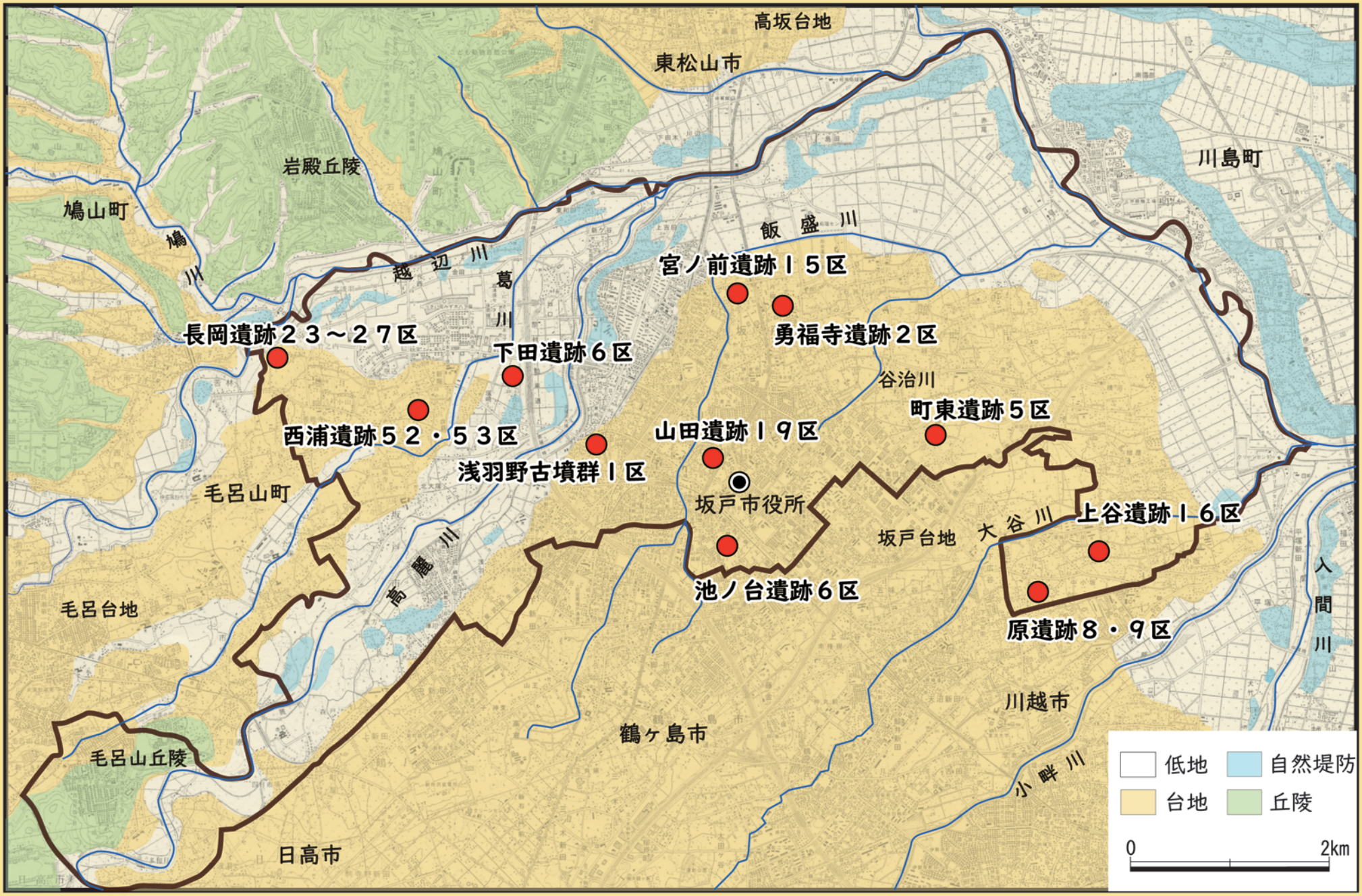
5号土坑出土 関山式土器

5号土坑は縄文時代前期の落とし穴と考えられます。直径は約3m、深さは約1mで楕円形を呈し、上面に対し下面が狭い造りになっていました。

5号土坑の覆土中からは「関山(せきやま)式」と呼ばれる縄文土器が出土しました。「関山式」は埼玉県を中心に関東地方全域に分布が認められる土器型式です。口縁部(こうえんぶ)の幾何学的(きかがくてき)な文様や胴部に施文された多種の縄文原体(じょうもんげんたい)※注からなる文様が特徴的です。坂戸市内における関山式土器の出土例は希薄であるため今回の発見は貴重な成果といえます。

※注　縄文原体:文様を施す際に用いられる繊維製の撚紐。

令和３年度発掘調査地点



埋文さかど年報
(令和3年度発掘調査)

■発　行：令和5年3月27日
■発行者：坂戸市教育委員会 坂戸市千代田一丁目1番1号
■印　刷：有限会社 タイアップ・ユウ